

<報告>分化型甲状腺癌に対する¹³¹I治療後の累積生存率(第14回医療短大研究会)

著者	丸岡 伸
雑誌名	東北大学医療技術短期大学部紀要 = Bulletin of College of Medical Sciences, Tohoku University
巻	9
号	2
ページ	267-267
発行年	2000-07-31
URL	http://hdl.handle.net/10097/33745

[報告]

第14回医療短大研究会

平成11年4月20日(火) 18:00-19:00
医療短大大講義室

講師: 丸岡 伸 先生(東北大学医療技術短期大学部 診療放射線技術学科)

演題: 「分化型甲状腺癌に対する¹³¹I治療後の累積生存率」

分化型甲状腺癌に対する¹³¹I治療を行った213例において、Kaplan-Meier法による生存率と生存率に影響を与える因子について検討した。全症例での生存率は5年生存率で72.8%, 10年生存率で59.0%, 20年生存率で40.3%で、遠隔転移のある症例の生存率は5年生存率で60.9%, 10年生存率で43.4%, 20年生存率で28.8%であった。40歳未満、乳頭癌、肺転移の生存率が、40歳以上、濾胞癌、骨および骨肺転移の生存率に比し有意に良好であった。

第15回医療短大研究会

平成11年7月5日(月) 18:00-19:00
良陵会館大ホール

講師: 玉置 勲 先生(社団法人日本臓器移植ネットワーク)

演題: 「臓器移植法と臓器移植の現状」

本邦において臓器移植法がようやく成立し、平成9年10月16日より施行されている。今般、従来の心停止後移植とともに法制化された脳死下移植の初の適応例の出現を踏まえ、同法の趣旨と脳死下移植の現状について講演を戴いた。

脳死と植物人間の相違点、脳死判定基準、脳死下臓器移植(心・肝・肺・腎・脾・小腸)のメリット、移植コーディネーターの役割などが講述された。特に、海外の医療機関に全面的に依存していた心臓の移植が国内で対応可能となり、法施行以来初適応となった症例についてその詳細が紹介さ

れた。(文責: 尾形)

第16回医療短大研究会

平成11年9月9日(木) 18:00-19:00
医療短大大講義室

講師: 佐藤 真理 先生(NGO [シェア: 国際保健協会市民の会])

演題: 「カンボジアの保健医療情勢」

タイ・カンボジアを中心にアジア・アフリカで保健・医療分野の海外協力活動を行っているNGOに所属する佐藤真理さんが、カンボジアから一時帰国した折、母校に立ち寄り活動報告をしてくれた。

活動の目的は1. 地域住民の健康問題の解決と住民主体の活動推進、2. AIDSを含む予防教育で、① 母親グループを育成し、地域活動の活発化、② 保健教育(母親Gと学校)、③ 伝統助産婦のトレーニング、④ 保健局・保健所スタッフへの支援である。

カンボジアの保健医療状況は悪く、乳幼児死亡率は106/1000出生(日本4)、妊産婦死亡率は473/10万出生(日本8)である。伝統助産婦の3日半のトレーニングは鍋釜持参の宿泊研修で、文盲ゆえ教育には視覚教材や記号・演技などで工夫しているという。またHIV/AIDSは爆発的に増加し、感染予防の指導がポイントという。

世界中のNGOの仲間と大学でクメール語を学び、自分の専門分野で地域に入って活動している彼女の目は、とても輝いて見えました。(文責: 佐藤(喜))

第17回医療短大研究会

平成11年11月24日(水) 18:00-19:00
医療短大大講義室

講師: 寺島 美紀子 先生(東北大学医療技術短期大学部 看護学科)

演題1: 入院中の悪性疾患患児の自主性に関わる